

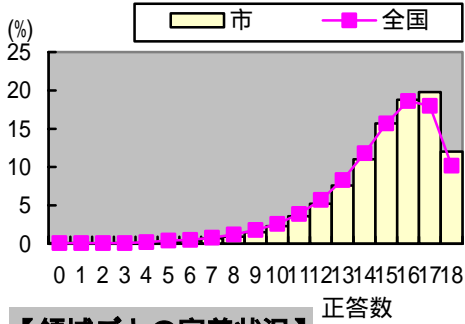
1 教科について

国語 A

全国平均 81.7 市平均 82.8

学校平均 82.8

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	56.6	59.8	64.8
書くこと	85.3	86.6	89.5
読むこと	67.3	69.8	75.6
言語事項	86.8	87.7	86.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	81.6	82.8	82.8
短答式	81.8	83.3	82.6
記述式	-	-	-

定着状況

口田小学校の正答率を教科・領域・問題形式別に比較すると、全国や広島県の正答率を上回っている項目が多い。また全国を 100 と見る全国比は国語 A 101 国語 B 105 と活用する力の方が定着していることが分かった。

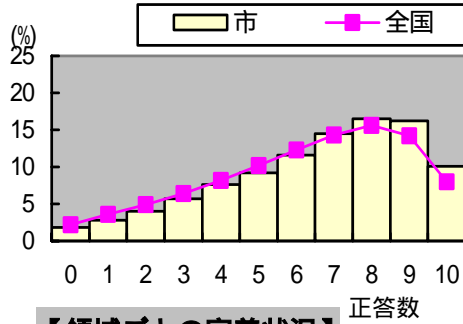
- A 漢字を読む(平均 98%)や、文脈に即した接続語を選択する(平均 97%)は、高い正答率であった。
- B 「司会者の進行のよいところを書く」設問(89.5%)は全国(79.0%)と比較して正答率が 10%以上高く、学級会等でも取り組んでいることもあり、司会のよい進行のしかたは定着している。

国語 B

全国平均 62.0 市平均 65.0

学校平均 65.0

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	70.9	75.1	76.7
書くこと	61.7	63.7	63.8
読むこと	57.7	60.9	59.7
言語事項	77.0	77.5	80.0

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	62.8	64.3	71.4
短答式	62.4	66.5	64.5
記述式	62.1	64.7	64.4

課題

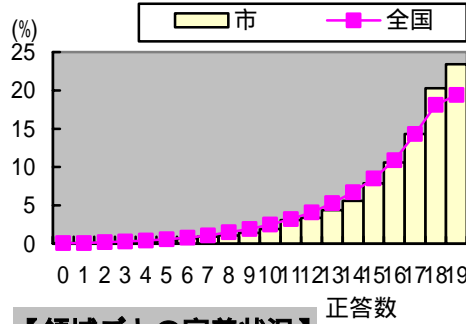
- A 国の正答率より「漢字辞典の効率的な調べ方」を選択する問題が 15%程度、「インタビューメモの工夫」を選択する問題が 7%程度下回る結果となっている。
- B 「情報の中から必要な事柄を取り出し、要約したり、書き換えたりする」ことについては、目的に応じた文章の書き方に関する技能が定着していないと考える。

算数 A

全国平均 82.1 市平均 84.2

学校平均 86.8

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	81.5	84.4	85.7
量と測定	86.1	89.7	90.8
図形	86.1	87.9	90.5
数量関係	75.4	76.6	82.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.5	80.0	81.3
短答式	84.1	86.0	88.7
記述式	-	-	-

定着状況

口田小学校の正答率を教科・領域・問題形式別に比較すると、全ての項目で全国や広島県の正答率を上回った。また全国を 100 と見る全国比は算数 A 106算数 B 107であり、概ね算数科の基礎的・基本的内容については習熟できており、それらを活用する力も定着していることが分かった。

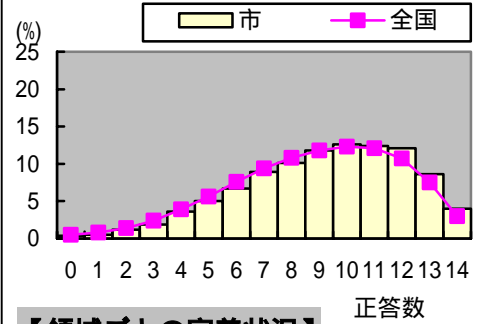
- A 同分母分数の加法や平行四辺形の面積を公式を活用して式化する問題(平均 100%)は、高い正答率であった。
- B 「L字型の図形の面積の求め方を表す式をよみとる」問題(91.4%)「棒グラフから人数の大小や人数の変化の様子をよみとる」問題(92.4%)は、高い正答率であった。

算数 B

全国平均 63.6 市平均 65.7

学校平均 67.9

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	58.9	61.1	63.8
量と測定	58.0	60.5	62.9
図形	72.5	74.6	77.5
数量関係	65.5	67.7	69.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	73.0	75.3	77.1
短答式	73.7	75.7	80.2
記述式	45.0	47.2	49.0

課題

- A 問題を正しく読み、読み取ったことや数量の関係を絵や図に表すことや表した絵や図を根拠として考え方を説明することに課題があると考える。
- B 地図の中から公園の形を平行四辺形と認識し面積の求め方を説明する問題の正答率(17.1%)が低い。資料を分析し、必要な情報を取り出し、判断・熟考し、活用・表現していく力に課題が見られる。

2 意識調査について	
(1) 生活・学習	(2) 教科
<p>家族内、地域の人たちとのコミュニケーションが比較的によくできている。</p> <p>学校生活を楽しんでいると感じ、肯定的に捉えている児童が多い。</p> <p>運動を好み、地域の活動によく参加している。</p> <p>あいさつや助け合いの項目をみると友だち同士のコミュニケーションは全国の割合と比べてやや消極的であると考えられる。</p> <p>家庭学習の時間が2時間以上の児童の割合が全国より低く、1時間以下の割合は全国より高い。</p> <p>今住んでいる地域は好きであると答える児童の割合は全国より多いがその歴史や自然環境への関心についての割合は低い。</p>	<p>【国語】</p> <p>新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている児童の割合が比較的高い。</p> <p>学んだことが将来社会に出たとき役に立つと考えている児童の割合が高い。</p> <p>資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていると答えた児童の割合が低い。</p> <p>【算数】</p> <p>問題をいろいろな方法で考えようとしている児童の割合が高い。</p> <p>問題の条件を整理し、筋道を立てて考えようとする児童の割合が高い。</p> <p>全体的に児童の意識が高く算数の勉強は大切で授業の内容はよくわかると答える児童の割合が高い。</p> <p>算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えていると答えた児童の割合が低い。</p>



3 確かな学力の定着と向上に関する研究目標
<p><研究主題> 『自ら考え表現し、ともに学び合う授業の創造』</p> <p>研究の視点 指導内容・方法を明確にした授業づくり 子どもたちの考えを深める授業づくり 言語技術の効果的活用のための指導方法や教材の開発</p>



4 指導改善に向けた具体的な取組	
<p>国語</p> <p>漢字辞典や国語辞典などの辞典類を国語科だけに留まらず、各教科の日常的指導の中で活用し、望ましい言語力を身につけさせていく。</p> <p>スピーチやインタビューなどの言語活動を行うときに、学習指導要領に明記された学年の目標や内容を達成できるよう、学年間での相談を密にしながら指導にあたる。</p> <p>目的や条件に応じて書く力をつけるために、条件を設定し、書くための技術を身に付ける指導を帯タイムや授業で継続して行う。</p> <p>読書タイム等で様々な種類の文章にふれる機会を設定し、長文を読むことに慣れさせていく。</p>	<p>算数</p> <p>2つの量が比例関係にあるものは低学年から扱っているので、カリキュラムを見直し、学年に応じて、何を中心に押さえたらいかを共通理解する必要がある。数量の関係をイメージ化できるように低学年から図や数直線を書くことを位置づける。</p> <p>割合の学習では割合独特の表現の難しさがあると思う。日常生活との関連を意識しながら、その学年の学習のたびに「もとにする量」「比べられる量」「割合」を別な表現で言い換えたりしながら表現に慣れさせていくことが大切であると思う。</p> <p>資料の中に自分が見つけた数値や数学的に価値のある情報を書き込んだり、自分の書き込んだ情報を利用して問題解決する学習展開を多く取り入れる。</p> <p>記述式の無回答を少なくするために、書く活動と関連づけながら、自分の考えの根拠を絵や図、式、言葉を使って表現したり、表現された友だちの考えをよんだりする活動を仕組む。</p>
<p>生活・学習習慣等</p> <p>【生活・学習習慣】</p> <p>家庭と連携をとりながら、学校で学んだことを自分の生活の中に生かし、具体的に取組めるような課題を考えていきたい。</p> <p>自分から進んで気持ちのよいあいさつができるように、挨拶運動などの継続的な取組を続けていく。まずは担任の取組への姿勢を見直してみたい。</p> <p>自然体験を教育活動に意識して取り入れ、動植物への関心を高め、環境作りについても見直す。</p> <p>【国語科】</p> <p>自分の考えや思いを進んで発表したくなるような授業を仕組むため、子どもの思考過程を考えながら教材研究を深める。</p> <p>言語技術の効果的な活用方法や教材を開発し、授業に生かすことで、子どもたちが楽しみながら国語科の基礎的・基本的な内容を定着するように意識を高める。</p> <p>【算数科】</p> <p>「考える力」を育てることを大切に、多面的に解決する力がつくような教材を精選し、考えることを楽しむ場を設定する。</p> <p>帯タイムや家庭学習の時間を工夫し、継続的に学習に取り組む中で、分かる喜びやできた喜びが味わえる時間を保障する。</p>	